

## 2022年度 創価大学法科大学院

### A日程 小論文審査

#### 問題1 (配点 50点)

次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

センスの悪い国で精密なマーケティングをやればセンスの悪い商品が作られ、その国ではよく売れる。センスのいい国でマーケティングを行えば、センスのいい商品が作られ、その国ではよく売れる。商品の流通がグローバルにならなければこれで問題はないが、センスの悪い国にセンスのいい国の商品が入ってきた場合、センスの悪い国の人々は入ってきた商品に触発されて目覚め、よそから来た商品に欲望を抱くだろう。しかしこの逆は起こらない。ここで言う「センスのよさ」とは、それを持たない商品と比較した場合に、一方が啓発性を持ち他を駆逐していく力のことである。

ここにひとつ、大局を見る手がかりがあると僕は思う。つまり問題はいかにマーケティングを精密に行うかということではない。その企業がフランチャイズとしている市場の欲望の水準をいかに高水準に保つかということを同時に意識し、ここに戦略を持たないと、グローバルに見てその企業の商品が優位に展開することはない。これが問題なのである。ブランドは架空にできあがるものではなく、やはりそのフランチャイズとなる国や文化の水準を反映している。

日本のクルマが海外で評価され、実績を上げている限りにおいては、日本人のクルマに対する意識水準は心配しなくていい。日本のクルマは今日においても、特にその性能面では海外の市場で高い評価と信頼を得ている。几帳面な日本人の性向はクルマを含めた様々な工業製品の基本性能を高い水準に保つことに寄与している。

しかしながら、小型車や実用車ではなく、高級セダンという切り口で世界の市場を見渡してみると、BMW、アウディ、ベンツなどの人気が高い。日本市場でも同じ現象がある。これはどういうことか。これは単純にいわゆるブランドイメージの強さや弱さの問題に帰するものではない。おそらくはこういうクラスのクルマに対する日本人の意識水準がドイツ、ヨーロッパに及んでないということだろう。こういう部分に現れてくる品質は、クルマの性能の問題ではなく、また個人のデザイナーが頑張って解決できる問題でもない。もっと総合的な品質、いわば品位や品格とでも形容すべき性質の問題である。そういう性質が不足している。市場の欲望の底に横たわっているこういう性質は簡単に改善できるものではない。

しばらくクルマを例に挙げて語ってきたが、「靴」にしても「オフィスファニチャー」にしても同じである。商品の母胎となる市場の欲望の質がグローバルな市場での商品の優位

性を左右する。それは一般的なマーケティングとは異なる深度に焦点を合わせないと見えてこない問題である。そういう問題を考えていくのが「欲望のエデュケーション」である。

香港で食べる中華料理は美味しいが、東京のそれはさほどではない。それがシェフの技量の問題であれば、腕のいいシェフを香港や中国から招けばいいし、事実そういうことも行われているはずである。しかしこのギャップはなかなか埋まらない。なぜなら、問題はシェフではなく顧客だからである。美味しい中華料理にうるさいお客の数を比較すると、香港と東京では勝負にならない。しかし話が「寿司」ならば立場は逆転するだろう。

この話は日本人の生活意識全体の問題である。したがって根本的には日本人の生活意識に深い影響を与えている要因を一つひとつ検証してみる必要がある。たとえば住宅はどうか。

日本の建て売り住宅の水準は高いとはいいがたい。住宅展示場に行ってみると少なからずがっかりする。外観もさることながら、画一的な間取り、工夫のない採光、床、壁、天井の素材の安っぽさ、門扉の不必要な装飾性、奇妙に凝った照明器具、フォルムに無駄を残すドアノブ……。日本人の家に対する思いは決して浅くはない。一国一城の主となるべく汗水たらして働いて頭金を貯め、多大なローンを組んで購入するものである。だから半端な買い物ではない。家を買うのは夢の実現である。しかしながら、真剣な買い物にしてこの水準。本気の度合いが半端ではない分、そこに露出している意識の低さが悲しい。住宅事情の悪さを日本人は宅地価格の高さのせいにしたがるが、そうではない。住空間に対する美意識が成熟していないのである。つまり欲望の水準が低い。

日本人は近代的な住居に対して理想的なモデルを与えられないまま暮らしてきた。明治に西洋を取り入れたが、住居は洋服のように簡単にはいかない。庶民レベルでは特にそうだ。和室と洋室をうまく融合させる方法すら満足に見つけることができないで、未解決のまま今日までやってきた。庶民が住居空間について学習する教材は、不動産業者が新聞に折り込むチラシである。2DKとか3LDKなどという間取りを眺めては、ふた部屋+ダイニングキッチン、あるいは三部屋+リビングダイニングと学習する。部屋の広さは畳の数で数え、床の素材の違いで洋間と和室を区別する。だからマーケティングをやっても「2DKで駐車場付き、ひと間は和室」などというモデルが導かれたりするのである。そういう不動産チラシが「リファレンス効果」を生み、欲望はいびつな形を与えられたまま一般化していくのである。

(中略)

ここまでに僕は何度も「日本」と言ったが一億三〇〇〇万人という市場は大きな市場である。マーケティングを行う上で市場は「畑」である。この畑が宝物だと僕は思う。畑の土壌を調べ、生育しやすい品種を改良して植えるのではなく、素晴らしい収穫物を得られる畑になるように「土壌」を肥やしていくことがマーケティングのもうひとつの方法であろう。「欲望のエデュケーション」とはそういうことである。「欲望」という言葉の生々しさに抵抗を覚えられる方もあるかもしれないが、単なる「意識」よりももう少し能動的なニュアンスを探した結果この用語となった。「エデュケーション」という英語を用いているのは「教育」

という言葉にある種の押し付けを感じるので「潜在しているものを引き出す」という意味を含めてのことである。自分としてももう少しエレガントな表現がないかと思案しているが、現状ではこの言葉を用いている。

優れた土壌から優れた作物を収穫するように、潤いのある感受性に満ちたマーケットからは潤いのあるデータが収穫されるはずである。幸か不幸か、日本の一億三〇〇〇万人のマーケットは、グローバリズムとの攻防においては「日本語」という防波堤で守られている。英語の不得意さが幸いして、日本市場は不思議なオリジナリティを維持している。この独自の市場における欲望の質を肥やしていくことが、収穫物の品質を向上させ、グローバルなステージでの日本の競争力を引き上げていくことに繋がるはずだ。デザインという営みは長い目で見て、そういう局面で働けるだろうと考えるのである。

(出典) 原研哉『デザインのデザイン』(岩波書店, 2003年)

#### 【設問 1】

筆者は日本のクルマについて下記の「 」内の文章のようにも述べている。下記の文章も踏まえて、日本のクルマのうち、小型車や実用車と、高級セダンでは、日本人の意識水準において具体的にどのような違いがあるか。150字以内で説明しなさい。

「よく耳にする国産車への批判として、海外のクルマと比べて美意識が足りないとか哲学が不足しているとかいう話がある。確かに一部のヨーロッパ車には強い自己主張を感じるものがある。クルマというプロダクトに込められた生産者の意欲を感じる。日本のクルマにはそういうものはない。日本のクルマは日本人の欲求に寄り添うようにつくられているので、エゴイスティックどころかとても温厚で従順である。性能は優秀で燃費もいいし故障も少ない。

日本のクルマが日本人の目におとなしく見えるのは、日本人のクルマに対する欲望を精密にスキャンし、それらに完璧に寄り添う形にできているからだ。だから、いい意味でも悪い意味でも日本のクルマは日本人のクルマに対する欲望の水準そのものである。」

#### 【設問 2】

筆者の考える「欲望のエデュケーション」とは何か。端的に 50 字以内で要約しなさい。

#### 【設問 3】

日本が住宅に対する欲望の水準が低いのはなぜか。筆者の考えを 200 字以内で説明しなさい。

**【設問 4】**

日本が住宅においてグローバルな競争力を引き上げていくためには、具体的にどのようなことが考えられるか。筆者のいう「欲望のエデュケーション」を踏まえ、あなたのアイデアを 100 字以内で述べなさい。

以上

## 2022 年度 創価大学法科大学院

### A 日程 小論文審査

#### 問題 2 (配点 50 点)

以下の設問に答えなさい。

##### 【設問】

ある小学校において、教員 A と教員 B が「学習用デジタル教科書 (以下「デジタル教科書」という)」について以下の通り意見交換をしている。

以下の議論を踏まえ、教員 A の立場に立って、デジタル教科書導入に向けて、保護者への理解を求める文章を 400 字以上 500 字以内で作成することとなった。教員 A の立場を説得的かつ論理的に説明するとともに、教員 B の示す懸念のうち、重要と思われる事項を一つ挙げ、それに対する対策案を書きなさい。

なお、本問は架空の設例であり、法律の知識を問うものではない。また、文章の形式 (意見書や上申書など) に留意しなくてもよい。

A : 本校もやっと児童一人に一台、コンピュータのタブレット端末を配布することができましたね。そこで、本校でも早期にデジタル教科書を導入すべきと考えますが、いかがでしょう？

B : 教科書をデジタル化するというのは、何か味気ないなあ…。小学生の頃、新しい本の教科書をもらったとき、わくわくしなかった？紙のにおいや手触りは、よい思い出となって残っているよ。

A : 確かにそういった感覚もありますが、クラスに数冊かは紙の教科書を残せばよいと思います。デジタル教科書にすれば、ペーパーレス化が進み、資源削減につながります。

B : でも、やはり、デジタル化にすると「活字文化」の衰退を一層招くような気がするよね。私もパソコンを使うようになってから、いざ漢字を書こうと思っても書けなくてね…。子どもたちの「書く力」や「読む力」が衰えてしまう気がするよ。それに、紙の教科書だと愛着もわくし、「物を大切に作る心」が育まれると思うんだ。確かに、時代は「デジタル化」なんだろうけど、これまで大事にしてきたものもしっかりと子どもたちには伝えたいなあ。

A : 現代社会は、デジタルトランスフォーメーションが急激に進んでいます。この社会で生き残っていくには、ICT を自在に使いこなすための情報活用能力が必須です。

B : デジタル・・・トラ？トランス？？ICT？

- A：デジタルトランスフォーメーションとは、将来の成長、競争力強化のために、新たなデジタル技術を活用して新たなビジネスモデルを創出・柔軟に改変することですよ。ICTは、‘Information and Communication Technology’、つまり情報通信技術の略です。
- B：難しいなあ……。私のようないわゆるアナログ人間は、用語の理解から始めないといけないよ。A先生が何を言っているかわからないのに、子どもたちにデジタル教科書を用いて教育をできるのか不安だよ。通信環境の不具合や機械の故障などには、とてもじゃないけど対応できない。
- A：そうですね。教員全員がICTに精通しているわけではありませんので、教員に対するフォローは重要だと思います。
- B：教員だけではないよ、保護者の方に対するフォローも大切だ。デジタル教科書にすると、自宅でもタブレット端末を操作する必要があるだろう。保護者が宿題を見てあげるといふ場面で、そもそも操作方法がわからないのでは、支障があるだろう。あとは、自宅にインターネット環境のないご家庭だってある。そういったご家庭への支援も大事だよ。経済格差によって「教育格差」を招かないようにしなければならないよ。
- A：なるほど、そういった配慮も必要ですね。その問題を解決できれば、デジタル教科書のメリットはとても大きく、魅力的です。ICTは、学校教育において「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、全ての子供たちの可能性を引き出す教育を実現するために不可欠です。デジタル教科書は、マーカーを引いたり、消去したり、文字を拡大したり、音声表示したりと、様々な操作が瞬時に可能であり、児童はそれぞれの理解度によって「個別最適な学び」を得ることができます。
- B：「協働的な学び」というのはどういうものなの？
- A：グループ学習を行う際に、デジタル教科書に書き込んだ内容を見せ合うことで、対話的な学びを行うことができるということです。書き込みが自由ですから、話し合いをしながら、クラスメイトの意見を書き足したり、自分の意見を変更しながら学習ができるようになります。
- B：それは、別にデジタル教科書でなくてもできるんじゃないの？
- A：それはそうですが、より迅速に、よりわかりやすくできるわけです。それだけではありません。デジタル教科書に書き込んだ内容を、教員が大型提示装置に映すことによって、説明箇所が視覚的に分かるため、児童が、教員の説明や他の児童の説明の内容などを理解しやすくなるというメリットがあります。児童の考えや答えを一気に画面上に映して確認することもできるんですよ。写真や映像などを組み合わせることによって、さらに学習効果をあげることができます。
- B：肝心の子どもたちは、デジタル教科書をどのように捉えているんだろうか。
- A：その点について、ある調査結果によると、「学ぶことに興味や関心を持つことができる」、「学習を振り返り、次の学習に繋げることができる」、「直接書き込んだり消したりを繰り返せることは、考える時に便利」、「グループでの話し合いで、書き込みをした教科書を見

比べることは、話し合いに役立つ」と答える児童が多く見られたということです。本校も、タブレット端末を配布すると、子どもたちはとても興味を持ち、積極的に取り組んでくれました。

B：デジタル教材は、とても興味関心を引くものだよ。だからこそ、そちらに熱中してしまい、肝心の教員の話や他の児童の話が入ってこないなんてこともあるのではないかな。また、デジタル教材を開けば、すぐに答えが載っているわけだよ。そちらの方が迅速で簡便だからと言って、すぐにデジタル教材やインターネット検索に頼ると、自ら考えたり、調べたりする能力が衰えて、学力や思考力が落ちていってしまうのではないかな。

A：そこはおっしゃるとおりですね。デジタル教科書の使い方を工夫する必要がありそうです。どのような弊害があるのか、どのように使っていくべきか、ルールなども含めて子どもたちと一緒に考えていくのがよいかもしれません。

B：あとは、子どもの健康への影響が気になりだね。視力は落ちやしないか、脳への影響はどうか保護者の方も気になっているところだと思うよ。

A：視力については、様々工夫をすれば問題はないと思います。実際、私の小学3年生の甥っ子も、小学1年生の頃から、タブレット学習を導入していますが、きちんと対策をしていますので、視力は1.5を維持していますよ。

B：脳への影響というのはどうなのだろうか。デジタル画面を見すぎると、集中力や記憶力が低下すると聞いたことがあるよ。それに、夜にスマートフォンを使い過ぎると、私はなんだか眠れなくなってしまうんだけど、子どもたちも、毎日デジタル画面を見ることで、睡眠障害に陥ったりはしないか心配だな。

A：それについては、今後の科学的知見なども注視していかなくてははいけませんね。

以上